皮　　膚　　科

【実習目標】

一般目標:

皮膚科診療の実際を介して、医療全体における皮膚科学の役割を知り、医師として必要な態度および皮膚科学的知識、技能を体得する。

到達目標:

1. 良好な人間関係のもとで患者、医師、およびその他の医療従事者とのコミュニケーションをとることができる。
2. 患者の立場に配慮しつつ、皮膚病変の所見を正しく観察し、記載することができる。
3. 皮膚症状から疑うべき内臓病変、および全身疾患の部分症状としての皮膚症状について説明できる。
4. 皮膚病変に関連して必要な身体所見をとることができる。
5. 患者に関する個々の情報を適切に収集、整理、関連付けをして問題点を抽出することができる。
6. 皮膚病変から皮膚悪性腫瘍およびその鑑別疾患を適切に想起することができる。
7. 皮膚を用いたアレルギー検査を行うことができる。
8. 基本的な創傷処置および軟膏処置の目的や手技を理解し、説明することができる。
9. 手術の目的や手技を理解し、説明することができる。

【実習内容】

1. 実習期間中、各学生とも 1 名の入院患者を受け持つ。
2. 受け持ち患者の疾患および関連疾患について学習し、指導医の監督のもとに皮疹の観察を行い、病態を把握したうえで、検査・治療の見学をする。
3. 初診から現在までの経過における臨床症状、検査所見などを整理し、現時点におけるその患者特有の問題点を明らかにし、今後の治療計画について指導医とディスカッションをする。
4. 主要皮膚疾患、特に皮膚悪性腫瘍の皮膚病理組織を観察し、所見の特徴について学習する。
5. ダーマスコープの取り扱い方、代表的な疾患についての特徴的所見について学習する。
6. 指導医の監督のもと、相互の生体を用いたアレルギー検査を実施する。
7. 皮膚科外来において、診察、検査・処置・小手術等の見学をする。
8. 手術室において手術を見学し、外科的治療の適応、目的、手技について学習する。
9. 病棟回診やカンファレンスに参加し、治療計画立案の実際やチーム医療の重要性について学習する。
10. 実習終了時に担当患者のケースレポートを提出、発表し、情報の統合とプレゼンテーション能力、ディスカッション能力、問題解決能力向上の訓練を行う。

【日程表】

9:00　9:15　12:00　13:00　13:30　14:00　14:30　15:00　15:15　16:00　16:15　17:30

月	オリエンテーション (医局セミナー室)*1 外来実習(皮膚科外来1診)		昼休み		入院症例説明 (医局セミナー室)			症例ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ※1 (医局ｾﾐﾅｰ室)
火		入院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ・ 教授回診 (医局セミナー室)		手術見学*2 (手術室)			皮膚病理実習 (医局ｾﾐﾅｰ室)	病棟実習※1 (10西病棟ほか)
水	外来実習 (皮膚科外来1診)			手術見学 (手術室)				病棟実習 (10西病棟ほか)
木	外来実習※2 (皮膚科外来)				アレルギー検査実習 (皮膚科外来5診)			病棟実習 (10西病棟ほか)
金	病棟実習 (10西病棟ほか)			病棟実習 (10西病棟ほか)		レポート発表・総括※3 (医局隣接 教授室/共用室)		

※1：月曜祝日の場合、火曜16:30～症例カンファレンス(医局セミナー室)
※2：9:00～ダーモスコピー実習、10:00～1診見学
※3：金曜祝日の場合、原則として木曜16:00～(アレルギー検査実習終了後)レポート発表・総括を行う

I.　患者と接する内容
- ①　外来患者について、皮膚所見の観察
- ②　入院患者について、皮膚所見の観察
- ③　処置（外用療法、創傷処置など）見学
- ④　手術見学
- ⑤　その他

II.　学生相互を対象とする内容
- ①　皮膚アレルギー検査
- ②　ダーモスコピー
- ③　その他

III.　生体と直接は接しない内容
- ①　病理組織標本観察
- ②　検査（真菌検鏡、検尿、検便など）

IV.　その他

注)　診療現場の状況や感染症の流行状況によっては、実習内容や時間を変更する場合があります。

【注意事項】

1. 集合場所：月曜 9：00 外来診療棟皮膚科外来。(月曜祝日の場合は火曜 9:00 に中央研究棟 1F 皮膚科医局セミナー室)。
2. 外来、病棟、手術室での私語は禁止する。
3. 服装などは、医学生として患者さんに不快感を与えないように心がけ、白衣、マスクを着用し、ネームプレートをつけること。ヒールや、底が固く歩くと音がする靴は不可。サンダルも不可。長髪は束ねる。また髪留めは髪と同系色のシンプルな物を使用し、リボンや大きな物、華美な物は避ける。
4. 火曜午前の病棟回診では患者さんの皮疹をよく観察するよう努めること。常に問題意識をもって参加すること。
5. 感染症拡大防止の観点から、体調が悪い場合はその旨電話連絡した上で自宅待機（欠席）すること。正当な理由のない欠席や遅刻は評価の際に減点対象となる。
6. 外来実習の準備として、特に下記の疾患について、病態、診断、治療などについてよく理解しておくこと。自分の知識が不十分だと感じる場合は、教科書や系統講義の際に使用したプリントを持参してもよい。

<実習に備え、特によく理解しておくべき疾患>

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、血管性浮腫、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外 Paget 病、菌状息肉症、天疱瘡、類天疱瘡、糖尿病性壊疽、蜂窩織炎、帯状疱疹、白癬、乾癬、熱傷

<参考図書など>

- あたらしい皮膚科学 第 3 版 清水 宏 著 (中山書店)
- 標準皮膚科学 第 11 版 富田 靖 監修 (医学書院)
- 皮膚科学 第 11 版 上野賢一 原著 (金芳堂)
- 皮膚病アトラス 第 5 版 西山茂夫 著 (文光堂)
- 「器官・システム病態制御学 II (皮膚)」 授業で使用したレジュメ

【評価方法】

外来実習、手術室実習、病理実習、ダーモスコピー実習、アレルギー検査実習、総括についてはそれぞれの担当教員が毎日、各学生の積極性、授業態度、医学的知識を評価する。その評価の合計を 70 点、レポートを 30 点とし、合計 100 点満点で評価する。無断欠席は 1 日につき 10 点、無断での遅刻・早退は 1 回につき 5 点を合計点から減点する。正当な理由による欠席は救済措置を考慮する。最終的な合計点 60 点以上を合格と判定する。

【担当教員】

●大学院医系科学研究科 皮膚科学

教　授　　田中 暁生

助　教　　森脇 昌哉

助　教　　斎藤 怜

助　教　　石井 香

●病院 皮膚・運動器診療科

講　師　　菅 崇暢

診療講師　　森桶 聡

助　教　　松尾 佳美

助　教　　水野 隼登

助　教　　松原 大樹

【連絡先】

教務担当　助教 森脇　昌哉(もりわき まさや)

※皮膚科学教室事務職員が代理で応対する場合もあります。

電話:　082-257-5237　医局事務室(受付時間:祝日除く月～金曜 8:30～17:00)

e-mail: mori1011@hiroshima-u.ac.jp（森脇）

欠席、遅刻、そのほか急を要する内容は、必ず電話で連絡してください。

欠席後の救済措置（補習）の相談など、急ぎでない用件は上記メールアドレスへ連絡してください。